

第四章 太田連合自治会と各種団体の動き



第四章 太田校下連合自治会と各種団体の動き

1 太田校下連合自治会の活動

太田校下の各自治会全体の組織であり、連合自治会長が会を運営しています。

コロナ禍期間以外は、連合自治会が要となって校下の諸行事を主催、共催、後援をしてきました。連合自治会から、各団体の自主性を尊重しながら、予算や人的な援助がなされています。

例) 平成 19 年 太田地区の年間諸行事等

月 日	行 事 内 容	場 所
1 月 1 日	伏木地区新年祝賀会名刺交換会	伏木福祉会館
6 日	高岡市消防団太田分団出初式	磯はなび
10 日	太田地区新年祝賀会	太田公民館
14 日	武田家自衛消防隊出初式	武田家
14 日	国泰寺自衛消防隊出初式	国泰寺
2 月 23 日	有磯ブロック公民館研修会	古府公民館
25 日	太田地区公民館研修会	旦保公民館
26 日	太田校下連合自治会月定例会（お別れ会）	磯はなび
3 月 11 日	美化活動 海岸清掃（辰ノ口南部、雨晴西部）	雨晴海岸
14 日	伏木中学校卒業式	伏木中学校
16 日	太田小学校卒業式	太田小学校
23 日	太田保育園修了式	太田保育園
25 日	太田校下児童クラブ総会	太田公民館
4 月 4 日	太田保育園入園式	太田保育園
5 日	太田小学校入学式	太田小学校
6 日	伏木中学校入学式	伏木中学校
11 日	太田校下連合自治会総会	磯はなび
13 日	太田校下婦人会総会	太田公民館
14 日	有磯・高山神社春祭り	有磯・高山神社
15 日	美化活動 海岸清掃（雨晴東部・旦保）	雨晴海岸
15 日	太田校下体育振興会総会	太田公民館
16 日	狂犬病予防注射	太田公民館
17 日	太田地区防犯指導委員会総会	太田公民館
20 日	太田小学校 P T A 総会	太田小学校

21日	松太枝神社春祭り	松太枝神社
23日	太田校下社会福祉協議会総会	太田公民館
24日	太田校下老人クラブ総会	太田公民館
25日	太田公民館運営審議会及び太田区域内公民館連携 推進協議会総会	太田公民館
26日	太田校下保健衛生協議会総会	太田公民館
27日	太田校下健康づくり推進懇話会総会	太田公民館
5月2日	太田学童保育運営協議会総会	太田公民館
19日	高岡交通安全協会太田支部総会	太田公民館
19日	太田小学校大運動会	太田小学校
27日	美化活動 海岸清掃（西田・谷内）	雨晴海岸
6月2日	太田雨晴観光協会総会	磯はなび
8日	太田小学校教育振興会総会	太田公民館
17日	美化活動 海岸清掃（山岸・中村）	雨晴海岸
19日	太田グランド外側側溝清掃（老人クラブ）	太田グランド
7月1日	雨晴・松太枝浜海開式	松太枝浜海岸
1日	雨晴海岸特別清掃実施	雨晴海岸
1日	桜谷古墳クリーン大作戦	桜谷古墳
11日	環境美化パトロール	太田地区一円
21日	アルカディア雨晴納涼祭	アルカディア雨晴
22日	美化活動 海岸清掃（山岸・中村）	雨晴海岸
25日	太田校下青少年補導委員会総会	太田公民館
7月～8月	雨晴海岸一円を巡回補導実施	雨晴海岸
8月4日	第25回太田ふる里まつり	太田小学校
10日	雨晴苑納涼祭	雨晴苑
12日	美化活動 海岸清掃（伊勢領）	雨晴海岸
24日	太田の歴史と文化を語る夕べ	武田家
9月6日	海岸漂着物調査（老人クラブ・小学校児童）	松太枝浜一帯
16日	松太枝神社秋祭り	松太枝神社
16日	有磯・高山神社秋祭り	有磯・高山神社
17日	太田校下敬老会	自然休養村
23日	美化活動 海岸清掃（渋谷・辰ノ口西部）	雨晴海岸
23日	空カン0の日・太田グランド清掃	太田地内グランド
29日	太田保育園運動会	太田保育園
30日	第42回太田校下住民運動会（雨天中止）	太田グランド

10月7日	太田小学校学習発表会	太田小学校
12日	ガン検診巡回実施（胃・肺・子宮・乳）	太田公民館
13～14日	太田校下連合自治会研修会	白山方面
20日	太田校下戦没者追悼式	善念寺
21日	義経社 50周年記念式祭	義経社
21日	美化活動 海岸清掃（辰ノ口北部・辰ノ口中部）	雨晴海岸
11月3日	第25回太田地区文化祭	太田公民館
10日	雨晴苑慰問（校下社会福祉協議会）	雨晴苑
13日	寝たきり老人介護者見舞い	太田地内
12月7日	三校下（伏木・古府・太田）自治会長懇談会	伏木福祉会館
28～30日	太田校下年末警戒実施	太田地区一円
通年	毎月第1・3水曜ひとり暮らし弁当作り（野の花グループ）	太田地区
	毎月第2水曜雨晴苑シート交換（大師ヶ岳の会）	雨晴苑
年10回	筋力アップ教室「おたっしや健康教室」(健康づくり推進懇話会)	太田公民館

○太田校下連合自治会会長名

～昭和57年 飯澤武夫
 昭和58～59年 島 豊晴
 昭和60～平成6年 古川修二
 平成7～8年 青木忠雄
 平成9～16年 勇永 昭
 平成17～22年 中木勝美
 平成22～28年 竹本哲夫
 平成29年～ 増井俊一

2 高岡市立太田公民館

(1) 開設

太田には、戦前から太田村役場として村長以下が勤めていた建物がありました。戦後も引き続きこの建物を活用し、公民館活動が行われていましたが、社会教育法の改定により新しいスタイルの公民館が昭和53年にスタートしました。

※参考 社会教育法第20条

区域内の住民のために実際生活に即する教育、学術及び文化に関する各種の事業を行う機関である。各種事業を行うことで、住民の教養の向上、健康の増進、情操の純化を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与することを目的とする。

(2) 主な活動

社会教育の拠点として、研修会や講座・学級等の開設や、団体・サークル活動の支援など、住民の生涯学習を支え、「生きがづくり」「地域づくり」のお手伝いに努めています。

地区連絡センターとして、住民票や戸籍抄本等を発行する機能も与えられていましたが、令和2年度3月末をもって廃止されました。

現在も連合自治会をはじめ、各種団体の事務局を預かり、資料作りや運営の世話、会合等の運営等に協力しています。また、主な主催事業としては、夏のふるさとまつりと秋の文化祭がありました。いずれも住民の高齢化や新型コロナウイルス蔓延防止対策の一環で取り止めになりました。毎年、区域内公民館連携事業として、自治会公民館の持ち回りで、連携と研修を推進する機会を設けてきました。

伏木、古府、太田3地区からなる有磯ブロック研修会にも参加して情報交換してきました。

さらに、市の公民館連絡協議会に所属し、高岡市公民館研究大会や市公民館フェスタには、毎年熱心に参加してきました。

○館長

初代	昭和 53～54 年	大森新蔵
2代	昭和 55～63 年	吉井直敏
3代	平成元～15 年	飯澤隆夫
4代	平成 16～21 年	吉田 勉
5代	平成 22 年～	古市猛広



3 太田校下社会福祉協議会

昭和26年(1951年)設立と思われます。市社協の年表には、この年に「各校下社協設立」とあります。校下には記録は残っておらず、正確なことは不詳です。

現存の規約では、「昭和58年11月25日より施行」となっています。

会の目的は、社会福祉事業の能率的運営と組織的な活動を図ること。運営資金は、校下連合自治会、県、市社協よりの助成金や、共同募金会、日赤募金会よりの交付金などでまかっています。

主な事業は、ふれあい生き生きサロン、給食サービス、雨晴苑慰問、シーツ交換、一人暮らし高齢者の集い、お達者健康教室、公園や海岸の清掃活動などがあります。それぞれの事業運営は、老人クラブ、婦人会、民生委員・児童委員協議会、健康づくり推進懇話会、野の花グループ、大師ヶ岳の会などが担っています。会としては、それら各ボランティア団体に支援・助成しています。かつては婦人会から引き継いで、敬老会を太田小学校の体育館で開催したこともありましたが、現状に合わせた

活動をするために活動内容が精選されてきています。

なお、各ボランティア団体では、常時、新規会員を募っています。

(1) 太田地区民生委員児童委員協議会

○民生委員・児童委員について

民生委員は、民生委員法に基づき、厚生労働大臣から委嘱を受けた地域福祉ボランティアです。それぞれの地域において、常に住民に寄り添い相談に応じ、必要な援助を行います。またすべての民生委員は児童福祉法に基づき「児童委員」を兼ねています。



児童委員は、地域の子供たちが元気に安心して暮らせるように、子供たちを見守り、子育ての不安や妊娠中の心配事などの相談・支援等を行います。また、児童の福祉に関する機関と区域を担当する児童委員の連絡調整を行う児童委員を専門的に担当する「主任児童委員」がいます。

○民生委員・児童委員の選出

民生委員児童委員の任期は3年で、地区の民生委員推薦準備会（太田のメンバーは、民生委員の代表、青少年指導・育成団体の代表、婦人団体の代表、PTAの代表、社会福祉団体の代表、連合自治会の代表、高齢者団体の代表、小・中学校の代表、学識経験者で構成）を開き、市から指定された定数（民生委員6名と主任児童委員1名）を推薦します。全候補者は、いくつもの要件を満たすことを求められています。

○民生委員・児童委員の主な活動

毎月、太田公民館にて定例会を包括支援センターの方に参加していただき実施しています。地区行事の参加協力、ひとり暮らし高齢者の安否確認、高齢者見守り活動、消防署防火パトロール、小学児童見守り隊（ささりんどう隊）避難行動要支援者の調査及びカードの配布、その他福祉に関連する事業・研修について活動しています。

○民生委員・児童委員の担当区域

民生委員・児童委員 6名、 主任児童委員 1名（校下全域）

- 1 西田・谷内
- 2 伊勢領
- 3 山岸、中村東部・西部
- 4 渋谷、辰ノ口北部・東部第一・東部第二
- 5 辰ノ口西部・中部・南部、旦保
- 6 雨晴東部・雨晴西部

(2) 野の花（一人暮らし高齢者対象弁当づくりボランティア）

当初、伏木地区合同で弁当作りをしていましたが、車で配達することや、料理に携わる日数等が調整できず、平成6年4月以降は、伏木地区から離れて太田地区の各公民館の調理室を借りて弁当作りの活動を始めました。

平成9年度より、太田社会福祉協議会の協力を得て、太田公民館に調理室が開設され、それが現在まで続いています。助成金で調理室の棚、弁当、エプロンなどを購入し、民生委員が安否確認を兼ねて弁当箱の回収を行っています。

- ・対象者 65歳以上の一人暮らしの高齢者（現在は75歳以上）
- ・活動 月2回、ただし8月、1月は活動をしない
- ・料金 1回につき300円（令和5年4月より）

(3) 大師ヶ岳の会（雨晴苑のシート交換ボランティア）

平成元年9月、高岡市特別養護老人ホーム「雨晴苑」開設と同時に設立

○活動目的 高齢者福祉

○活動内容

- ・月1回のシート交換

第2水曜日の午前9:30～午前11時 4グループ編成で当番制

令和4年3月度には38名の会員数があった。

- ・車椅子の介助 4月：お花見、6月：バラ園見学
- ・催事のお手伝い 8月：夕涼み会、11月：文化祭
- ・研修会 雨晴苑より地域交流委員会の研修会があります。
例) 車椅子の取り扱い方、社会見学 等

(4) 太田地区食生活改善推進委員会

通称は「食改さん」。食生活を通じて住民の健康づくりを目指しています。

昭和54年（1979年）設立。令和4年4月1日現在の会員数は12人。

昭和61年（1986年）より市の委託事業となりました。

平成16年（2006年）より太田小料理クラブ（食育クラブ）を指導

○主な活動

- ・高齢者向け調理実習
- ・男性のための調理実習
- ・親子で作る調理実習
- ・学童保育の子どもたちと調理実習
- ・太田小食育クラブの指導
- ・お達者健康教室の協力 など

(5) 太田地区ヘルスポランテニア

手軽にできる運動の普及による生活習慣病の予防や心身の健康づくりをねらいとしてしています。※設立年度不明（平成17年以前の記録なし）

○主な活動

- ・がん検診受診の啓発
- ・お達者健康教室の協力
- ・赤ちゃんニコニコ教室の協力
- ・ミニ歩こう会の実施（年5回）

(6) 太田地区母子保健推進員

昭和60年5月設立 ※地区で2名、市より委嘱されています

○目的

- ・妊婦さんや赤ちゃんの健康を見守る。
- ・育児に係る相談で、保健センターとのパイプ役になる 等

○主な活動

- ・7か月児訪問
- ・「赤ちゃんにこここ教室」を年3回開催
- ・行政に協力（パパママ教室、離乳食教室に協力）

(7) 太田校下健康づくり推進懇話会

平成10年設立。同年より『健康づくり推進員』が市から委嘱されています。当初、市が直接企画・運営に携わっていましたが、平成19年より自立し、同時に機関紙『健康づくり推進懇話会だより』を年3回発行しています。

自治会、婦人会、母子健康推進員、食生活改善推進員、ヘルスポランテニア、環境保健衛生委員の6団体で構成されています。

○ねらい 地区住民の健康づくりを旨とする。

○主な活動

- ・お達者健康教室の企画・運営
- ・歩こう会の実施（年2回）
- ・がん検診の協力
- ・赤ちゃんニコニコ教室に協力
- ・料理教室に協力

○推進員 約40名

(8) 高岡市更生保護女性会伏木支部太田会

- ・市民活動団体の「高岡市更生保護女性会」の組織に所属。

- ・会長は高岡市長の婦人（令和3年高橋陽子氏から角田幾子氏に）
- ・活動分野は、社会教育の推進、地域安全運動、人権擁護・平和の推進、子どもの健全育成 等

○会の目的

「更生保護」は犯罪や非行をした人が、地域で立ち直れるように支援するとともに犯罪や非行のない明るい社会を作るための法務省所管の事業です。

この事業が十分な効果を上げるためには、立ち直ろうとする人たちが生活する地域社会の積極的な協力が必要です。本会は青少年の健全育成を願い過ちに陥った人たちの更生について理解を深め、支えとなるような活動に取り組んでいます。

○活動状況

高岡地区BBS会と高岡市保護司会と連携しながら、保護観察中の青少年たちと一緒にスポーツを通して社会性を培いながら更生をはかる取り組みをしています。また、更生保護施設「養得園」へ、日曜日の夕食を届けます。（県下の更生女会員が交代で家庭料理の味を工夫しています。）さらに、法務省主唱「社会を明るくする運動」では、犯罪や非行のない社会づくりを目指して、「ミニ集会」や「子育て支援活動」を実施しています。会員の意識向上のため、更生保護に関する講演会や、刑事裁判の傍聴、各地の刑務所や更生施設などの訪問を計画し、見聞を広めています。

○会員 令和5年度太田地区 25名（伏木支部全体は136名）

4 高岡市消防団太田分団

○消防団とは

消防団は、常勤の消防職員が勤務する消防署とは異なり、火災や大規模災害発生時に自宅や職場から現場へ駆けつけ、その地域での経験を生かした消火活動・救助活動を行う、非常勤特別職の地方公務員です。

消防団の活動は消火だけではありません。実際にどのような所で活躍しているのか、どのような役割を持った組織なのか知ってほしいと思います。

消防団は、消防本部や消防署と同様、消防組織法に基づき、それぞれの市町村に設置される消防機関です。地域における消防防災のリーダーとして、平常時・非常時を問わずその地域に密着し、住民の安心と安全を守るという重要な役割を担います。また、近年は女性の消防団への参加も増加しており、特に一人暮らし高齢者宅への防火訪問、応急手当の普及指導などにおいて活躍しています。

太田全体では、現在22名（定員23名）の団員がいます。火災の際には最前線には行かないものの、消火活動に参加したり火事場の残務整理や夜を徹した見張り番などに従事したりしています。

○太田分団の最近50年の歴史

- ・昭和 54 年 3 月 22 日 消防団器具置き場を現在の場所に新設
- ・昭和 61 年 12 月 26 日 西田に消防器具置き場を新設
- ・平成 12 年 3 月 消防ポンプ車更新 5 名乗車 4WD 車両になる
- ・平成 15 年 3 月 31 日 消防署員の常駐がなくなる 分団器具置き場に
- ・平成 16 年 4 月 「高岡市消防団伏木第 4 分団」から「高岡市消防団太田分団」と改称
- ・平成 23 年 消防団員の作業服が更新される（現在のもの）
- ・平成 29 年 6 月 高岡市消防団消防操法大会優勝
- 同 7 月 富山県消防団消防操法大会優勝
- ・令和元年 12 月 消防ポンプ車更新 現在の車両

○年間行事・日常活動

出初め式、春季・秋季演習、歳末特別警戒

○歴代分団長

古川松夫、
安田清一
斎藤祐一
中沢健一
高林義之
島尚司
松林善寛（現）

5 太田校下体育振興会

太田校下体育振興会 年間行事予定（コロナ発生前）

実施時期	事業名	会場
4 月末	総会	太田公民館
5 月中旬	ビーチボール大会	小学校体育館
5 月下旬	高岡市年齢別ソフトボール大会（選抜チーム）	ボールパーク高岡
7 月下旬	ソフトボール大会	太田グラウンド
8 月上旬	太田ふるさと祭り（出店）	太田小グラウンド
8 月下旬	太田校下ゴルフ大会	花尾カントリークラブ
9 月末	太田校下住民運動会	太田グラウンド
10 月下旬	グラウンドゴルフ大会	太田グラウンド他
11 月中旬	ソフトバレー大会	小学校体育館
2 月月初	ボーリング大会	高岡スカイボール

新型コロナウイルス感染拡大以前には、様々な体育活動を展開し、校下住民の健康維持や親睦のために一役買っていました。その代表は、校下住民運動会で、太田小学校のグラウンドから太田グラウンドへと広い敷地に移行して盛大に開催していました。さらに、ソフトボール大会やゴルフ大会など、有志を募って開催していました。

古くは連合自治会長が会長を兼務していたようですが、昭和末から名前が分かる会長は以下のとおりです。

○会長

昭和 62 年～平成 4 年	増井俊一
平成 5 年～ 9 年	増井修
平成 10 年～15 年	中沢隆則
平成 15 年 10 月～	増川富美
平成 16 年～30 年	中瀬真明
平成 31 年～令和 4 年	竹山紀伸
令和 5 年	竹本省一



6 太田老人クラブ連合会

○目的

校下の各クラブ会員の相互の教養を高め、健康の増進を図るレクリエーション等によって、楽しく幸福な生き甲斐と、社会人の一員として努力することを目的としています。

○構成

西田谷内万年会、伊勢領勢寿会、有磯第一渚会（中村）、有磯第二渚会（山岸）、辰ノ口第一つまま会、辰ノ口第二つまま会、辰ノ口第三つまま会、晴寿会（雨晴）の 8 単位クラブの連合会

○組織

- ・上部機関の高岡市老人クラブ連合会及び北部地区老人クラブ協議会（伏木・古府・太田地区）に属し、各種行事に参画しています。
- ・各単位クラブは、神社の清掃等環境美化活動、健康体操、地藏まつり、親睦旅行、追悼法要等を行っています。
- ・このほか太田老人クラブ連合会として、海岸清掃、国泰寺開山忌前の境内清掃、太田グラウンド清掃、海岸漂着物調査協力等を行っています。
- ・高岡市老連、北部地区老人クラブ協及び校下各種団体の行事参加の橋渡しを行っています。近年はシャフルボード大会等で好成績を上げるほか、演芸大会等での舞踊の出演など、積極的に活動しています。

老人クラブへの加入は任意ですが、近年の働き方改革で全国的に会員が減少する傾向のなか、太田老人クラブは令和4年度618名と平成28年度の589名より増加しています。しかし、コロナ禍の影響等により、決して安閑としてはられない状況です。今後とも魅力的な老人会にするべく、交通安全の「やわやわ運転」の実践や、令和4年度から始められた、eスポーツ体験会やプロ野球観戦など、新たな取り組みも取り入れ、長年培ってきた経験や知識を生かしながら、まずは老後を楽しみ、老人クラブの目的を達成していきたいと思っています。

○会長

平成6年	有島光美
平成7年～8年	杉林敏雄
平成9年	竹本幸一
平成10年～14年	高井政一
平成15年～19年	向井作蔵
平成20年～26年	中条滋夫
平成27年～令和元年	山口徹郎
令和2年～	吉本隆之



7 太田婦人会

昭和49年3月発刊の「高岡市婦人会史 一五十年の歩み」によると、大正6年に氷見郡太田村婦人会が誕生しています。昭和初期には料理講習や染物講習、敬老会、日用品委託販売等の活動をしていた記録があります。戦前は国防婦人会、愛国婦人会を結成し、軍事援護したようです。戦後は、季節保育所、太田保育園、婦人学級等の活動を起こし、各種ボランティア活動にも積極的に参加していた記録があります。

近年は、敬老会を開催し、校下住民運動会やふるさとまつり等に参加協力をしてきましたが、平成26年に市から脱退し、また近年は新型コロナウイルス感染防止対策のために活動が極端に制限され、さらに婦人会を結成できない自治会がいくつも出てきました。



太田校下婦人会と世相を鑑みて

太田校下婦人会は、婦人の教養を高めるとともに、家庭生活を明朗にし、併せて地域社会の向上と福祉の増進に寄与することを目的としています。

往日は、地域の幅広い分野の活動を行っており、市政にとっても大きな役割を果たしていました。また、活動を通して人と人をつなぎ、笑顔あふれる地域づくりを目指してきました。例えばふる里まつり、文化祭等では役員一同が協力して、地域の方々に喜ばれるよう頑張ってきました。

令和2年度よりコロナ禍の影響のため、予定していた事業が次々と中止になりました。しかし、そうした中でも誰かのためにできることを役員で考えながら参加してきました。それは、『健康づくり推進懇話会』や「赤ちゃんにこここ教室』等です。

近年では、会員数減少のために活動を維持することすら大変難しくなっており、役員それぞれが心を痛めております。非常に残念なことではありますが、令和4年

度末をもって活動を終了する運びとなりました。

それでも今後の太田の発展を心より願っております。

太田婦人会長 川崎 律子

8 太田地区防犯指導委員会

○設立 昭和35年に、太田地区防犯指導委員会として設立

○目的 犯罪のない明るい住みやすい地域をつくることを目的として、地区内のパトロール等を実施しています。

○構成 会員は各自治会から1名選出。但し、中村東部2名、中村西部2名、伊勢領3名)の合計20名で構成しています。

○活動

- ・設立当初から平成20年まで、毎月20日を防犯日として、車にスピーカーを載せて、防犯、注意喚起を促してパトロールしています。
- ・自転車の鍵かけ、盗難防止のパトロールも行っています。
- ・昭和40年ころから、7～8月に松太枝浜キャンプ場周辺のパトロールを始め、現在に至っています。
- ・平成21年に青色回転灯を一基導入し、月4日、5のつく日(5、15、20、25日)に、また平成23年には2基となり、月6日(1、5、10、15、20、25日)パトロールを展開しています。その際、街灯球の点検・報告も行っています。
- ・年末特別警戒パトロールを毎年28日、29日、30日に実施しています。12月29

日には各自治会詰所を激励訪問のパトロールをしています。

○会長

初代 島 清一

2代目 佐山正久

3代目 瀧井孝光

(文責 瀧井 孝光)

9 太田校下青少年補導委員会

○目的 地域の青少年の健全な育成のため、巡回補導活動を行っています。

○組織 各自治会から1名ずつ（伊勢領は2名）選出され、組織されています。

○活動

(1)校下の活動

①夏季巡回指導

松太枝浜に設置の青少年補導委員会詰所を拠点として、松太枝浜キャンプ場及び伊勢領浜、道の駅「雨晴」の巡回

②毎月10日と20日「地域安全ふれあいの日」に各自担当地区の自主巡回

③年末年始の各自担当地区の自主巡回

④小学校児童に万引き防止啓発ティッシュを配布

(2)警察ボランティア協議会及び市青少年補導委員会の活動に参加

①御車山、伏木曳山祭り

②社会奉仕活動

③市内街頭補導（大型ショッピングセンター、ゲームセンター等）

④校下空き家調査

○歴代会長

麻井祥志

中山龍夫

藤本尚義

10 高岡市交通安全協会太田支部

○目的 交通安全協会は、交通事故のない安全で住みよい交通社会の実現を目指しています。

○行事

①年間行事として、年2回の全国交通安全運動に協力。さらに、県の交通安全運動にも協力

- ②夏の県民運動期間中に、雨晴トンネルの手前のもみじ姫公園駐車場にて、かえるのマスコットを渡し、「無事カエル作戦」を展開
 ※伏木幹部交番、太田駐在所、母親クラブ、婦人会等が協力
- ③年1回交通安全教室を開催。太田校下住民に対し開催
- ④民生委員と合同で、「一人暮らし老人世帯への啓蒙」運動
- ⑤安全運転を喚起する看板を国道415号線沿いに設置。特に交差点付近
- ⑥中学校新入生に自転車通学用のヘルメットを交通安全母の会が贈呈

○歴代支部長

～昭和58年	飯澤武夫
昭和59年～60年	古市清一
昭和61年～平成27年	山田寛良
平成28年～	古市猛広

11 太田校下環境保健衛生協議会

○発足 平成3年5月

○現会長 向井武司（平成28年～）

○委員 保健衛生委員20名

○目的 地域の清掃美化

- ・ネズミ、アメシロ、衛生害虫の駆除など、公衆衛生の向上
- ・校下住民の健康づくりなど

○主な活動

- ・各団体の清掃美化活動への支援
- ・環境巡視員（市より委嘱）による校下の環境美化パトロールの実施（年2回）
- ・健康づくり懇話会への参画
- ・特定検診、がん検診受診の啓発など

①環境衛生美化活動

- ・海岸清掃＝16の自治会が順番に4月から10月に活動（11月～3月は活動停止）
 他に太田老人クラブ、太田雨晴観光協会が活動しています。
 太田小学校は、漂着物調査、日の出会に海岸清掃もしています。
- ・桜谷古墳、太田グラウンド、国泰寺の草刈り活動
- ・空き缶拾い
- ・環境美化パトロール＝7月に実施、不法投棄の監視
- ・その他 側溝の泥上げ、アメリカシロヒトリ防除・消毒（6～7月にかけて各自治会で実施されます）

②健康づくり活動

- ・がん検診受診の奨励、集団がん検診会場での協力
- ・地域における健康づくり活動

※健康づくりボランティアや関係団体、行政と協力・連携しながら各種健康教室や健康づくり推進懇話会活動に参加し、地域ぐるみの健康づくり活動を進めています。

12 太田遺族会

大東亜戦争で、一家の大黒柱を失ったまだ若き戦争未亡人の、年老いた父母と小さな遺児を抱え、物心両面にわたる想像を絶したその苦しみを慮り、終戦の翌年の昭和21年に、太田村に、遺族の家族が中心となって設立されました。このことは全国に波及し、翌22年に日本遺族会が発足しました。遺族会活動のための資金作りのために当時、海水浴客であふれた雨晴海岸に浜茶屋「いこいの家」を経営したりしました。小学低学年だった小生もかき氷作りに駆り出されたことが思い出されます。さつま芋を主食にするような悲惨な環境にありましたが、それはそれで楽しく思い出されますが、そんなことは二度と繰り返してはならないと思います。

遺族会の目的は、国の礎となった英霊を顕彰し、遺族の処遇改善や福祉の増進を図り、もって世界の恒久平和の確立に寄与するとともに、相互に懇親し助け合い、明日へのやる気を生み出すことにあります。設立時の会長は当時の太田村 村長三箇功氏、翌年から増井佐一氏が引き継ぎ、平成3年に本永雄朔氏が、平成13年に増井義嗣が引き継ぎ現在に至っています。令和4年現在の役員は、副会長に石永勝美氏、女性部長に杉林明子氏、壮年部長に吉本隆之氏、事務担当は辻浦正昭氏が務めています。

太田校下の戦没者数は日清・日露戦争8柱、大東亜戦争90柱、その遺族世帯数は設立時93世帯、遺族会員数は設立時67会員。現在26会員に激減しています。

遺族会の主な活動内容は、国・県・市の戦没者追悼法要や靖国神社への祭礼参加のほか、校下の夏の忠魂碑法要と秋の戦没者追悼法要があります。その行事は校下連合自治会からの委託事業として実施しています。会員の高齢化により今後の活動が危ぶまれますが、英霊への法要は何としても、末代まで続けねばならないと固く決意しています。



昭和63年度太田校下戦没者追悼法要

※忠魂碑

明治 41 年 6 月に岩崎地区内に建立されましたが、道路拡張に伴い、昭和 30 年代に善念寺境内に移転され、同 37 年 11 月に日支・大東亜戦争の英霊の芳名を刻んだ銅板を嵌め込み、法要しました。銅板作成の発起人は、越田友次郎氏・安田庄吉氏・寺尾信一郎氏、銅板の寄贈者は山本程次郎氏。大小 2 体のうち小さい碑は、判読困難ですが、日清戦争の英霊のためと思われます。毎年 8 月 13 日早朝に、周辺の清掃後、善念寺住職の読経のもと参拝しています。

(文責 太田遺族会長 増井 義嗣)

13 太田地区有害鳥獣捕獲隊協議会

害獣対策 —野生動物との共生を考える—

県は 2019 年度、イノシシやニホンジカの捕獲専門チームの活動を拡大させるという。新たに高岡市福岡地区などに活動地域を広げるという。20 年度には砺波と婦中地区が対象になるという。チームは、県が開いた捕獲技術研修の終了生と県猟友会のベテランで作るという。野生動物被害防止対策会議で報告される。 北日本新聞 31. 4. 24 より

①シカ、ニホンジカ被害

- ・ニホンジカによる針葉樹等の樹皮被害が拡大、その樹皮被害等により立ち枯れる樹の拡大、出没地域の拡大 → 海老坂一帯～氷見の朝日山一帯へと
- ・平成 31 年（2019 年）4 月 22 日（火）西田の住宅にカモシカが現れたとの新聞報道。樹皮の被害による樹の立ち枯れが現実に（北日本新聞 31. 4. 23）
- ・令和元年（2019 年）10 月 8 日雨晴の坂を上がった所にある展望台付近にシカが車にひかれたか歩道に横たわっていたという。

②イノシシの農作物被害と対策

- ・放置された竹林にはイノシシ等が頻繁に出没し、いたる所にヌタ場とスリ樹の地域を作り出しています。
- ・平成 28 年頃からイノシシが谷内・西田地区に頻繁に出没し土に出る前の竹の子を食べ、皮だけを周りに残していきます。

対策

有効な手段として、金網等の柵を作る、電気柵を設置する、檻を仕掛ける等の方法が取られています。この他、「農地周辺の草刈りなどを徹底し、身を隠す場所を

作らない」「柿や栗など放置果樹の伐採の徹底を地域全体で共有する」等、生息環境整備の徹底が言われています。

○農作物の被害防止のための電気柵の設置費用は、国の鳥獣被害防止総合対策交付金にてまかなわれています。

※電気柵・・・現在、農地・田畑・竹の子の農作物被害を防ぐため電気柵を設置。特に水田の被害を防ぐために5か年計画等で整備し、維持管理の負担を軽減しています。

③太田地区有害鳥獣捕獲隊協議会の結成

イノシシ対策の一つである「捕獲対策」をさらに進めるため、太田地区全体の連携強化及び推進体制の強化を図ることを目的に、令和2年3月22日、わな猟狩猟免許保有者を中心として、当協議会が結成されました。

太田地区におけるイノシシ捕獲頭数（2017～2022年度実績）

地区	谷内	西田	中村	旦保	雨晴東部	その他	合計
成獣	10	3	10	15	2	5	45
幼獣	65	12	15	25	15	6	138
合計	75	15	25	40	17	11	183

14 青年団活動

青年団が主体的に行う活動のことを言い、地域活動、社会活動、学習活動等が挙げられます。熱心な活動をした人のなかには議員になる人も見られました。

地域活動には、祭りの企画・運営、清掃奉仕や廃品回収、公民館事業へのボランティア参加等がありました。祭りは元々地域の青年団が一切を仕切り、祭りこそが青年団の存在意義と思われた時代もありましたが、青年団員の減少や社会の多忙化に伴い、青年団を含む各種団体、有志からなる「保存会」形式で運営されています。

かつて昭和40年代後半から50年代まで太田校下青年団も、二十歳の集いや奉仕活動、盆踊りなど多種多様な行事を行い、市青年団協議会や県青年団活動等に参加する機会もありました。しかし、全国的な青年団活動の衰退のなか、15年ほど続いた後、校下組織としての活動が途切れている現状です。

しかしながら、地域住民にとって心浮き立つ祭りの花形は獅子舞であり、その季節には、ますます若い青年層の活躍・活動が期待されています。

15 ボランティア団体「あいの風」の活動

ボランティア団体「あいの風」は、太田地区の住民で平成10年（1998年）に約30人で発足しました。

地域の活性化を目的に、雨晴海岸や国泰寺、重要文化財の武田家などの観光名所をはじめ、地域内各所にごみの持ち帰りを促す看板を設置してきました。また小学校での工作教室や観光協会等と連携した観光振興にも取り組んできました。中でも最も力を入れてきたのはカーブミラー清掃・磨きで、地域の安全を守るために25年間ずっと続けてきました。現在は会員が減少・高齢化しているため、新たに参加者を募集しています。



第五章 国の史跡、重要文化財指定の建造物等の現在までの動き



雨晴海岸



有磯海（女岩）



大師ヶ岳



桜谷古墳群



武田家



国泰寺



第五章 国の史跡、重要文化財指定の建造物等の現在までの動き

1 国史跡 桜谷古墳

高岡市文化財保護活用課より



- ・昭和 40～41 年（1965～66 年）
高岡市は古墳 2 基の環境整備事業を行い、史跡公園として保存することを決定しました。この整備を契機に「桜谷古墳群保存会」を結成しました。
- ・昭和 51 年（1976 年）
県道バイパス（現国道 415 号線）工事に伴う富山県教育委員会による第一次調査（試掘）が行われました。
- ・昭和 52 年（1977 年）
富山県教育委員会による第二次調査（本発掘）が実施されました。この結果、桜谷 1 号墳の大溝と円墳 1 基（13 号墳）、箱式石棺 2 基が、新たに発見されました。
- ・昭和 57 年（1982 年）
県道バイパス（現国道 415 号線）の取り付け道路工事に伴う富山県教育委員会による第三次調査（本発掘）が実施されました。大溝を詳しく調査したところ、桜谷 1 号墳の周溝とされました。この段階では、桜谷 1 号墳の形は前方後円墳とされています。
- ・昭和 59 年（1984 年）
国史跡指定 50 周年記念祭が行われました。
- ・平成 4 年（1992 年）
桜谷古墳駐車場の整備が行われました。
- ・平成 11 年（1999 年）
富山考古学会創立 50 周年記念シンポジウム「富山平野の出現期古墳」の資料の中で、周溝の再評価を行い、桜谷 1 号墳の墳形は、「前方後方墳の蓋然性が高い」と判断されました。
- ・令和 5 年 4 月（2023 年）
新しい案内板が設置されました。

2 国重要文化財 武田家

高岡市太田字旦保 4258 番地

江戸時代後期に建てられ、武田信玄の弟、武田信綱の末裔で代々太田村の肝煎り

を務めた豪農の住宅です。国の重要文化財に指定されています。映画のロケ地になったことが何度もあります。

- ・平成元年（1989年）12月25日
武田家より高岡市に寄贈されました。管理者：武田てる（高岡市教育委員会生涯学習課に確認）



- ・昭和49年（1974年）6月～50年（1975年）12月
半解体修理が実施されました。77,700千円をかけ実施。
- ・昭和51年（1976年）
6月21日から有料で公開されました。（一般200円、子供100円、団体半額）
- ・平成20（2008年）11月～22年（2010）3月
屋根替え部分の修理が実施されました。70,290千円をかけ実施。
- ・令和4年（2022年）3月
武田家自衛消防隊が解散しました。
- ・令和4年（2022年）11月
武田家自衛消防隊が再結成され、現在に至ります。

3 國泰寺（国宝や重要文化財の指定は受けていませんが）

臨濟宗は禅宗の一派であり、鎌倉時代に支那（宋）から日本に伝えられました。國泰寺は全国に14ある臨濟宗の本山のうちの1つで日本最北端に位置する、臨濟宗國泰寺派の大本山で、北陸随一の臨濟禅道場として、700年の歴史を保っています。

この50年間では稲葉心田管長と澤大道管長の二人のリーダーが挙げられます。

- ・62世 心田禅師は坐禅会、講演、墨蹟揮毫にと活躍され、観音堂・月泉庭・放生池等を完成し、庫裡（くり）・台所などの改築を行い、境内の景観を一新されました。また、開山国師生誕700年の大法要を営まれました。
- ・63世 現管長 大道老師は、開山国師650年遠忌の厳修、禅堂・鐘樓の改築、研修道場の新築等々、大法要、建物の修造を行い、道場の高揚と大衆の教化に務めておられます。



令和4年4月に近藤勇の甲冑が見つかったという新聞報道があり、令和5年3月には、前田利家の安堵状、手紙が残っているとの新聞記事が出ました。

伏木の勝興寺が令和4年12月末に国宝に指定され、高岡市には瑞龍寺と2つの寺院が国宝に

なりました。その勢いで、國泰寺も是非にという機運が、現在さらに盛んになってきました。

4 雨晴海岸、義経岩、女岩

- ・平成8年（1996年）

昭和43年（1968年）に能登半島国定公園が指定された際、雨晴海岸も国定公園とされ、さらに平成8年には「日本の渚百選」に指定されました。



- ・平成18年（2006年）3月

富山県景観条例で、女岩絶景ポイントとし

て「ふるさと眺望点」に指定されました。これは現在「とやまビューポイント」に変更され、親しまれています。

- ・平成26年（2014年）3月18日

「有磯海・女岩」が国の名勝「おくのほそ道の風景地」として指定されました。

- ・平成26年（2014年）10月19日

雨晴海岸が「世界で最も美しい湾クラブ」に加盟しました。

- ・平成27年（2015年）10月7日

「有磯海・女岩」に引き続き、義経岩も「おくのほそ道の風景地」に追加指定されました。

- ・平成29年（2017年）

義経岩前に踏切が設置されました。

（工費9,400万円）

- ・平成30年（2018年）4月25日

道の駅「雨晴」がオープンしました。その際、道の駅「雨晴」周辺では、景観を生かすために電柱を地下に埋設した無電柱化の工事も同時に進められました。



- ・令和元年（2019年）10月16日～20日

「世界で最も美しい湾クラブ」の世界総会が富山県で開催され、17日には大会参加メンバーが「磯はなび」や道の駅「雨晴」などを視察しました。太田小学校児童が全校挙げて、「ドラえもん神輿」や「つままの舞」を披露して歓迎しました。

5 心のよりどころ 獅子舞と神社

(1) わが心のふるさと 松太枝神社

平成 21 年 12 月 合祀百年記念

①神社沿革

- ・明治 42 年 4 月

天満社（辰ノ口村社）と熊野社（澁谷新村社）が合祀され、伏木神社 17 代宮司尾崎充三郎により松太枝神社と命名改称されました。

- ・昭和 33 年 4 月

日の宮社（旦保村社）が有磯神社より紹へいされ、松太枝神社に合祀されました。

【参考】①富山県立図書館資料から

- ・天満社（辰ノ口村社）御鎮座年代不詳 京都北野天満宮から分新された
- ・熊野社（澁谷新村社）御鎮座年代不詳
- ・天平勝宝年来（750 年）、澁谷は古国府に次ぐ都邑であった。即ち「古国府に六千戸、澁谷村に三千戸」と称した。この時代から村社があったようである。

【参考】②氷見郡神社明細表より

- 一 正徳 2 年（1712 年）射水郡社号帳

社名／村社／神主社人

天神／太田村／島村（尾崎）内記

熊野権現／太田村／島村（尾崎）内記

火の宮／太田村／島村（尾崎）内記

- 一 宝暦 9 年（1759 年）12 月

関権頭触下越中神主持宮書 宝暦九年越中国社号帳

天満社／太田村／竜口産神

熊野権現／太田村／澁田産神

日宮／太田村之内丹保産神

②最近の動き

- ・昭和 39 年 松太枝神社屋根葺き替え 総工費 120 万円
- ・昭和 44 年 松太枝神社鳥居新調
- ・平成 21 年 松太枝神社合祀百年祭執行
- ・平成 31 年 3 月 社務所新築
- ・令和 4 年 3 月 20 日 御神輿修復

③松太枝神社 由緒

- ・鎮座地 富山県高岡市太田 4422 番地の 1
- ・境内面積 七百坪
- ・氏子数 三五〇戸（平成 21 年）
- ・祭神 菅原道真命（すがわらのみちざねのみこと）
伊弉諾尊（いざなぎのみこと）
伊弉冉尊（いざなみのみこと）
菊理姫命（くくりひめのみこと）
天照皇神大御神（あまてらすおおみかみ）

④年間行事

- 元旦祭 1 月元旦
- 天神祭・鎮火祭 1 月 25 日（現在近い日曜日）
- 春祭り 4 月 25 日（現在近い土曜日）
- 秋祭り 9 月 16 日（敬老日の前日曜日）
- 新嘗祭 12 月 8 日（現在近い日曜日）

⑤松太枝神社奉賛会 事業

- 3 月 会計監査（奉賛会役員）、総会（事業・決算報告）
- 4 月 春季大祭（神事のみ、神輿修繕安全祈願）
- 9 月 秋季祭礼
- 12 月 五穀豊穰祭、神札頒布
- 1 月 歳旦祭（宮番、還暦記念、初老記念）、
合同会議（東部地区協議会役員、奉賛会役員）、祈年祭・火祭り
- 通年 神社清掃（5～11 月第 2 日曜日、奉賛会）

(2) 村社 有磯神社

富山県高岡市太田 1267 番地

①由緒沿革

神社明細帳によれば、明治 42 年、村社神明社は次の八社を合祀し、「有磯神社」と改称した後、便のよい現在地（太田 2555 番地 字金子田）の諏訪社跡地へ移転した。

- 許可 明治 42 年 3 月 11 日 合祀 明治 42 年 12 月 10 日
- 移転 明治 42 年 12 月 15 日
- 神明社 天照皇大神 豊受大神 字土居東

〈明治 42 年に合祀した八社〉

- ・日宮社 天照皇大神 字旦保
- ・熊野社 伊邪那岐命、伊邪那美命、月夜美命 字西谷内
- ・白山社 菊理姫命、事代主命 字山岸
- ・天満社 菅原道真 字伊勢領
- ・火宮社 火産霊命 字源道
- ・魚取社 事代主命 字源道

“明治2年暴風のため社殿壊潰杉古木をもって神寶とあがめ社殿なし”

- ・諏訪社 建御名方命 字金子田
- ・日吉社 大山咋命 字山岸

〈昭和3年に合祀した五社〉

- ・神明社 天照皇大神 字上小保
- ・諏訪社 建御名方命 字桜谷
- ・諏訪社 建御名方命 字伊勢領
- ・水神社 水波適賣命 字源道
- ・水神社 水波適賣命 字赤尾谷内

②最新の出来事

- ・平成14年7月14日
平成の屋根瓦改修 拝殿の屋根瓦改修工事（拝殿の両端屋根＝止め蓋瓦に雨漏り等による腐食あり） 野畑建設着工 谷内自治会担当
- ・平成14年9月15日
神事と祝賀行事開催（本殿の屋根瓦改修を祝う）
各村の氏子が見守る中、4自治会の獅子舞が各演目をそれぞれ奉納した。
氏子宅に「村社 有磯神社」のパフレットが配布された。
- ・平成30年9月15日
秋季祭の時に拝殿の両端屋根の瓦＝止め蓋瓦のずれによる雨漏り跡があり、修繕された。山岸自治会担当

(3) コロナ後の獅子舞の継承

松太枝神社では敷地内にあった公民館を廃し、平成31年3月に社務所を新築しました。しかし、コロナ禍で多くの人が集まることを避けねばならず、獅子舞自体ができない年が続きました。そんな中でも令和4年3月には御神輿が修復され、盛大にお披露目されました。

獅子舞をこよなく愛する地域住民の声が後押しをして、コロナ禍の3年間の空白を越えて、新しい体制ややり方を模索しながら、獅子舞を継承しようとい

う機運が高まってきました。

子供たちや青年団だけに任せきりにするのではなく、保存会型式にして多くの参加を求めるとか、獅子舞を舞う軒数を半分に減らし、春と秋の交代制にするとか、工夫が提案されています。笛を吹く女兒や女性の姿も見られます。春と秋の太田ならではの豊かな風情を永く楽しみたいものです。

